

北の建築家

「toiの家」

■ 音更町・Nさん宅

菅原 雅重
安田 琢朗

撮影 / 古瀬 桂



下：広い敷地内の小高い場所にあった古い牛舎を取り壊して、住まいを新築。外壁は、先に建築した店舗と同じ無塗装のカラマツ材仕上げ。素材を統一することで、場に一体感が生まれている
左：コンクリート土間のフリースペースの出入口には、アイアンの意匠と素材の風合いが美しいヨーロッパのアンティークドアを用いた

兵庫県から十勝に移住し、畑に囲まれた丘の上でパンとコンフィチュールのお店「toi」を営むご夫婦の住まいです。広い敷地内の小高い場所に古い牛舎があり、そこに「牛舎の記憶を残した家を建てたい」というのがお二人の希望でした。

「記憶」として生かしたのは、牛舎を形づくっていた構造材です。長い年月を経た古材は唯一無二の風格を備えており、可能な限り手を加えずに再利用することが、素材に対する敬意であると考えました。また、古材に残る昔の職人の仕事や刃物の跡はとても美しく、図面に合わせて安易に切るものではないとの思いから、この素材ありきで設計を進めることとしました。

古材は主に屋根の構造に用いています。一般的な屋根構造はサイズのそろった材を一定の間隔で組みますが、今回は同じものが一つとしてない古材の強度を逐一確認して構造計算することで、一見無作為に見える屋根裏の意匠が生まれました。

間取りについては、「個室はつくりたくない」との要望がありました。そのため古材を用いた校倉造の収納と白い水まわりの箱をそれぞれ家の中央に置き、2つの箱の間にできた「寝間」や2階に点在させたスペースで、各々が居場所を探して暮らす空間構成としました。これは、障子戸などで空間の境界を曖昧にする日本家屋的な場のつくり方につながる手法です。

このプロジェクトは、未完の設計図をもとに進行しました。家の隣に立つカシワの木の枝の皮を剥いてつくった手すりや、お施主さんが山で刈った丸太の柱などは、手仕事を尊重し、設計と施工を行き来し続けたからこそ実現したこの家づくりならではの個性です。

今後はフリースペースのギャラリー利用や、敷地全体を利用したランドスケープやイベントを予定しています。牛舎の記憶を宿したこの住宅が、ご家族と多くの人たちとのつながりを紡ぎきっかけになってほしいと願っています。

(文/菅原 雅重 安田 琢朗)





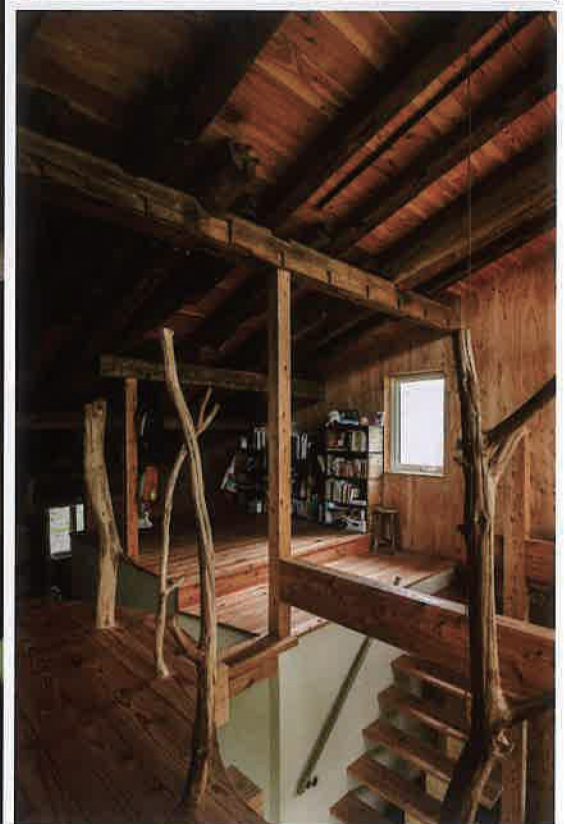
上右・上左：「toiの家」では、古材や庭のカシワの枝など、身近にあるものをできるだけそのまま生かした。手仕事の形跡と自然の有機的な造形が空間全体に温かみと安心感をもたらす
 左：造作キッチンがコの字型で、キッチンとダイニングを横並びにしたストレートダイニングのレイアウト。通路に沿って設けた造作棚には食器の一部を収納している



尺の短い古材は、縦ぎ合わせて「校倉(あぜくら)」と名付けた収納に生かした。この地に織のある古材が、新居の個性として表現されている



玄関から室内に入ると、木づくりの大空間が目の前に広がる。牛舎で使われていた構造材は、主に新居の屋根の構造材や化粧柱として再利用。古材ならではの不均一な形と色合いが窓からの外光に照らされ、存在感を持って浮かび上がる



人工物が何も見えない空と緑の景観へと大きく開かれた2階の大開口。窓は北寄りの東向きで、朝は気持ちがいい陽射しが入り、日中以降は安定した外光を室内に採り込むことができる

上：コンクリート土間敷きのフリースペースは、リビングや作業場など、自由に使える多目的空間。将来的にはギャラリー利用など、パブリックな場としての活用も想定されている

下：水まわりを集約した白いボックスの上部は、子ども部屋として勉強道具やおもちゃなどを置いている。天井が低く、秘密基地のようなこもり感が漂う

PROFILE

すがわら まさしげ
 1975年 宮城県仙台市生まれ
 1998年 風基建設 入社
 2002年 細見工務所 入所
 2013年 第62回神宮式年遷宮副棟梁
 2016年 株式会社おかげさま 設立

やすだ たくろう
 1993年 帯広市生まれ
 2015年 前田紀貞に師事
 2016年 京都工芸繊維大学工芸科学部造形工学課程 卒業
 2016年 安田建築設計事務所 勤務

DATA

音更町・Nさん宅
 家族構成 夫婦40代、子ども2人
 設計 安田建築設計事務所 安田 琢朗
 ☎ 0155-34-1588
<https://www.yasuda-archi.com>
 E-mail: tyasuda@wind.ocn.ne.jp
 設計・施工 (株)おかげさま 菅原 雅重
 ☎ 0155-67-5861
<https://okage-sama.com>
 E-mail: sugawara@okage-sama.com

■建築データ
 構造規模 木造(在来工法)・2階建て
 延床面積 94.97㎡(約28坪)
 <主な外部仕上げ> 屋根/ガルバリウム鋼板、外壁/カラマツ大和張、建具/玄關ドア:断熱ドア・アンティークドア、窓:樹脂サッシ
 <主な内部仕上げ> 床/カラマツ無垢フローリング、壁/カラマツ台板・珪藻土、天井/カラマツ野地板 一部古材現し
 <断熱仕様 充填断熱+付加断熱> 基礎/押出法ポリスチレンフォーム(B2)50mm、壁/セルローズファイバー105mm+ビーズ法ポリスチレンフォーム特類60mm、屋根/押出法ポリスチレンフォーム(B3)120mm
 <暖房方式> 薪ストーブ

■工事期間 令和4年11月～令和5年5月(約6ヵ月)

